

日本海水学会若手会第3回学生研究発表会を終えて

実行委員長 外輪健一郎*

まだ冬の寒さが残る中、3月5日(月)から6日(火)に徳島で若手会第3回学生研究発表会を開催しました。学生研究発表会は海水にかかわる研究に携わる多くの学生、若手研究者の相互の学術情報の交換と、交流を目的として2年前に千葉工業大学で開催されたのを皮切りに、去年は秋田で催され、その際も大変な盛り上がりでした。

徳島は全国各地からの交通アクセスが決して良くはありませんので、参加者は少なめになるであろうとの予想のもと、開催準備を始めました。今回は発表形式として口頭発表とポスター発表の2つのセッションを設けました。12月に発表申込みの受付を開始したところ、さっそく数件の申し込みを頂きました。これはひょっとして発表数が伸びるかもしれないと思っておりましたところ、最終的にはポスター15件、口頭発表18件の申し込みを頂きました。若手会の皆様から全国の皆様にお声掛け頂いたこともありましたが、海水学会の皆様の熱心さを痛感いたしました。

講演発表会場は徳島大学の常三島キャンパスにある工業会館でした。工業会館は平成8年に完成した2階建ての建物です。2階のメモリアルホールで口頭発表を、そしてセミナー室でポスター発表を行いました。実は天気予報では学会当日は天気が非常に悪く、土砂災害にも注意が必要とさえ言われておりました。慌てて前日に参加者全員にメールを送って、雨具の用意を呼びかけたほどです。しかし当日は心配をよそに雨もそれほど降らず、無事に開催できる様子となり、とても安堵した次第です。

会場がキャンパスの一番奥まった場所にあることから迷われる方がおられるかもしれないと心配しておりましたが、無事に全員の方が会場までお越し下さいました。受付は12時に開始したのですが、大きな混乱もなく無事に全員の方を会場にご案内することができました。

若手会代表の石川匡子先生にご挨拶を頂き講演会が幕を開けました。まずは口頭発表が行われまし

た。発表件数が多くなりましたので、一人当たりの持ち時間は質疑応答を含めて10分と短めに設定させていただきました。その時間的な制約の中で、内容を伝えるために十分に準備された発表ばかりで、質疑応答も活発に行われました。(写真1)



写真1 口頭発表会会場の様子



写真2 議論で盛り上がるポスター会場

口頭発表終了後は会場をセミナー室に移してポスター発表が行われました。前回に引き続き、今回もポスター番号が奇数の発表は発表時間の前半、偶数の発表は後半をコアタイムとすることで相互に質問が可能となるような時間設定を行いました。セッションは大変熱気にあふれておりました。(写真2)

続いて徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授の上月康則先生から「エコシステム工学手法による海域環境の保全・修復の取り組み」という題目で特別講演をいただきました。海の汚染を食い止めるために、自然のもつ自浄能力をうまく発揮できるような手法とその実証結果を大変わかりやすくご紹介いただきました。海水学会は海水を利用する技術の研究が多いように筆者は感じておりますが、上月先生の海を守るという視点での技術開発を進められておられる点がとても新鮮であり、また今後重要になる技術と確信しました。後日発表内容

についての問い合わせがあるなど、参加者の間での反響も大きかったようです。

講演会の締めくくりとして閉会式および表彰式が行われました。口頭発表、ポスター発表はともに参加者全員が審査員として参加し、それぞれ一件ずつの優秀賞を選びました。いずれも優秀な発表ばかりでしたので、僅差での判定となりましたが、結果として、口頭発表の部では千葉工業大学の大中彩さん、ポスター発表の部で徳島大学の尾崎友紀さんが選ばれ、尾上薫先生(海水学会会長、千葉工大)から賞状と副賞が贈られました(写真3)。最後に締めくくりの言葉を尾上先生に頂き、閉会式までが無事に終了しました。

閉会式終了後のことですが、徳島に全国から多くの方にお越し頂けることを知った徳島大学の学生が集まり、阿波踊りが披露されました。時間的な制約もあり、数分間だけのおもてなしでしたが阿波踊りを初めて見る方も多くおられ、大変楽しんでいただけようでした。



写真3 優秀賞を受賞した大中彩さん(左)と尾崎友紀さん(右) 中央は尾上薫会長

懇親会は徳島市の繁華街にある阿波料理の名店「藍蔵」で行われました。開会に先立ち、今年の年会の実行委員長である日秋俊彦先生(日本大学)から年会の紹介を頂き、共催頂いた徳島化学工学懇話会の事務局を務めておられる杉山茂先生(徳島大学)からご挨拶を頂きました。その後、優秀賞の大中さんの乾杯で宴会が元気よく始まり、藍蔵の皆様には、徳島の味覚である海鮮料理や肉料理をたっぷりと提供していただきました。懇親会の最後

には東郷育郎様(旭化成ケミカルズ、海水学会理事)、山本活也様(塩工業会、海水学会参与)、それに中尾真一先生(工学院大学、海水学会前会長)からそれぞれ学生、若手に対して示唆に富んだお言葉を頂き、盛会のうちに終えることができました。

二日目は朝から徳島駅前に集合して見学会に出発しました。今回は大塚製薬工場様の松茂工場を見学させていただきました。松茂工場では病院で使用する輸液が製造されています。生理食塩水をベースにした点滴薬を製造する最新の生産設備を詳しく説明していただきました。厳密な品質管理のもとで、機能の高い輸液を作っておられることがよくわかり、技術の高さを実感しました。

続いて鳴門の渦潮の見学に向かいました。潮の満ち引きの関係で渦潮が多くみられる時間帯は限られています。見学に訪れた際は最も適した時間帯であったはずなのですが、残念ながら数個の渦しか見ることができませんでした。最後に大鳴門橋のたもとで食事と記念撮影(写真4)をして見学会を含むすべての日程が終了しました。



写真4 大鳴門橋での記念撮影

最後になりましたが、本会の開催は多くの方々に支えていただきました。徳島化学工学懇話会様、徳島大学フロンティア研究センター様にはそれぞれ共催団体、協賛団体として厚いご支援を頂きました。大塚製薬工場様の見学は東郷様および志摩孝洋様(鳴門塩業)のご紹介によって実現したものです。若手会代表の石川先生、それに松本真和先生(千葉工業大学、現日本大学)、市村重俊先生(神奈川工科大学)、正岡功士様、中山由佳様(海水総合研究所)

には、準備の段階から当日の運営に至るまで大変お世話になりました。徳島大学の学生の皆さんも準備と運営、おもてなしの阿波踊りに熱心に取り組んでくれました。紙面を借りまして皆様に改めてお礼を

申し上げます。

*徳島大学 〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1

TEL : 088-656-4440

E-mail: sotowa@chem.tokushima-u.ac.jp